



寒さが身にしみる季節になってきましたね。皆さんどのお過ごしでしょうか。  
今回は、肺炎球菌の予防接種について話したいと思います。

## 高齢者の肺炎球菌予防接種について

平成26年10月1日より、高齢者の肺炎球菌感染症の定期予防接種が始まりました。接種の対象となる方は、

- ①平成26年度に、**65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳、101歳以上の方**
- ②60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害がある方

となっています。平成27年度～平成30年度までは、その年度ごとに65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳となった方が対象となります。

※過去に肺炎球菌の予防接種を受けた方は対象となりませんのでご注意ください。

**定期接種の対象となる方は、自治体の助成を受けられることもありますので、各自治体に問い合わせください。**

### Q1.接種後の副反応ではどのようなことが起こりますか？

A1.接種後に注射部位の腫れや、痛み、時には軽い発熱が現れることがありますが、通常1～2日でなくなります。前回の接種が5年以内だった方は、副反応が起こりやすいといわれていますので、接種する際はその旨をお申し出ください。

### Q2.肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス)の効果は何年ぐらい続くのでしょうか？

A2.健康な人では、少なくとも5年間は抗体価が高い状態が維持されると言われています。

### Q3.肺炎球菌ワクチンを接種したのに、肺炎になってしまいました。これはなぜですか？

A3.原因として考えられるのは

- 1)原因となる肺炎球菌の型がワクチンに含まれていなかった。
- 2)原因となる菌もしくはウイルスが、肺炎球菌ではなかった。
- 3)ワクチンの抗体価が、感染を防げるレベルまで上がっていなかった。  
もしくは下がっていた。
- 4)体の抵抗力が落ちていた。

などが考えられます。

